

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・文法の定着と単語力の向上がみられた。
- ・表現活動を頻繁に取り入れることができた
- ・アクティビティに力を入れることで、生徒が1時間の授業に集中することができた。

(2) 課題

- ・音読をさせる機会が少なかった。
- ・ライティング活動において、自分のアイデアを英語になおすことが苦手な生徒がいる。
- ・家庭学習の取り組ませ方に工夫が必要。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	おおむね英文を聞き、内容を理解することができていた。 語彙の知識・理解もよくできていた。		
第2学年	英文を聞き、その要点を的確にとらえることができています。 自分の考えを英文で表現することに課題が残る。	全ての観点で目標値を上回っている。特に語彙の知識・理解、単語の並べ替えがよくできている。(第1学年時)	
第3学年	対話文においては、聞くこと、読むことはおおむね出来ている。 自分の考えを書くことは、目標値を下回っている。	全ての観点で目標値を上回っている。特に語彙の知識・理解、単語の並べ替えがよくできている。(第2学年時)	全体的に目標値を上回っている。書くことに関しては、区の平均を下回っている。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分からない単語や連語について翻訳機等に頼ることなく自分で辞書を引いたり、何度も声に出して発音と綴りを連動し覚えさせる。	復習を繰り返すことで既習事項の定着を図り、大切な表現や英語特有の言い回しを読み解く力を身につけさせる。	反応が良く、積極的に発言できる生徒が多い。しかし、授業中に私語をしたり、無関係なことをしてしまう生徒もいる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語形の知識、理解が目標値を下回っていた。既習事項の文法の形を定着させる必要がある。	書くことに関しては、情報に基づく英作文には対応できていたが、3文以上の英作文に課題がみられる。	積極的に授業に取り組む生徒がいる反面、なかなか知識が定着しない生徒もいる。スピーチや表現テストに関しては意欲的に取り組む。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語形の知識、付いてきた。対話文を読む力は付いてきたが、語彙、語法はさらなる定着が必要である。	まとまった量の英文を読むことに苦手意識がある。3文以上の英作文など、自らの意見を書くことができない。	積極的に授業に取り組む生徒がいる一方、知識が定着しない生徒もいる。スピーチや表現テストに関しては意欲的に取り組む。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の詰め込みを避け、毎時間所要所で前時の復習をし、小テストの活用で既習事項の定着を図る。またドリルや反復練習を頻繁に取り入れ、記憶力を高めさせる。	原文のまま、日本語に頼らず英文読解を行い、辞書や参考書を大いに活用させる。また文章問題では、文脈から前後関係を読み取らせ的確に正解を導かせる。	ICTの使い方次第で生徒の興味関心が語学習得から離れないように必要に応じて使用を最小限に制限する。またALT授業では、生徒一人一人がよく考え、自ら発問、発話ができる態度を醸成する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや日々の授業の中で、文法知識のインプットとアウトプットの練習を増やしていく。	学習したことを生かし、自ら思考し表現する機会（話す、書く）を沢山与える。英作文に関しても、丁寧に指示をして書けるように指導していく。	ICTを活用し、生徒の興味・関心の湧くようなアクティビティを取り入れていく。また、自学自習の方法などを紹介し、取り組み方を定着させたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自学自習や日々の授業の中で、文法知識のインプットとアウトプットの練習を増やしていく。	日頃より、自分の考え、意見を言う機会を増やす。また自分の考えを話すことだけでなく、書くことにまでつなげる。	英語が苦手な生徒でも、できることが少しずつ増えるように丁寧に指導していく。長文読解に苦手意識が強い生徒もいるので様々な長文を読む機会を増やす。